



研修初日(9.5)

① まもなく研修が始まります。緊張感が漂います。



② 研修は三好誠司総務部長の挨拶で始まりました。



③ 続いて中澤文彦利根沼田森林管理署長より演習地を含む管内の概要について説明がありました。



④ 恒例の自己紹介です。都県ごとに一人ずつ簡単に自己紹介をしていただきます。



⑤ 研修生、スタッフ自己紹介の後はすぐに最初の講義が開始しました。林野庁岩田講師による「准フオレスターの役割、森林・林業再生プランの概要」と「市町村森林整備計画の概要」の講義です。



⑥ 最初の講義の最後にプロセスマネージャーの西さんから今回の研修について説明を行いました。



⑦ 今回も高橋伸幸群馬県森林組合連合会指導課長による「森林施業の集約化(提案型集約化施業)」についての講義です。



⑧ 実際の豊富な経験に基づく内容なので説得力があります。

研修2日目(9.6)



① 酒井秀夫東京大学教授による「路網と作業システム」についての講義です。



② 地形に応じ、どのような林業機械を導入して作業システムを考えられるのか。コスト計算の実践中です。



③
 いよいよ今回研修のメイン形式「グループ演習」のスタートです。グループになることで、他人がもつ経験や考え方を知り、多様な視点が養われます。また、知識のみでなく、コミュニケーションを通じて対人能力を培うことができます。



④
 プランナーが提案する施業案に対し適切な指導ができるよう視点を養います。



⑤
 発表の様子です。グループ毎に間伐事業のコスト計算を算出した成果を発表します。



⑥
 コスト計算を考える上で苦慮したことや成果に至った経過等について、参加者全員で共有します。



⑦
 続いて、図面を見ながらの机上演習を行います。



⑧
 図面を見ながら路線と間伐箇所を計画します。



⑨
 各班成果が出揃ったところで発表です。苦慮した点や注意を払った点等について説明します。



⑩
 発表後は班毎に林野庁高井講師から講評を行いました。

研修3日目(9.7)



①
 3日目の現地演習です。間伐が遅れているスギの森林を将来どのように整備していくのか検討します。



②
 こちらは広葉樹が進んできたカラマツの人工林。将来像を検討します。



③
カラマツの人工林では、関東森林管理局高平講師から森林の概況とカラマツの利用方法や市況などについて説明しています。



④
現地においても班毎に話し合った事を発表し、各班の成果を共有します。



⑤
各班からの発表の後、齋藤講師より、このカラマツ林の将来林型やこれからの施業方法等、現在の考え方を説明しました。



⑥
最後に講師から総評があります。写真右から、内藤健司講師(宇都宮大学名誉教授)、田中浩講師(森林総合研究所森林植生研究領域長)



⑦
午後は昨日の演習で図面を見て検討した現場です。写真は沢の渡り方等について検討しているところです。



⑧
実際に現地を確認して分かったこと等について各班から発表します。



⑨
現地を見ることで机上では分らなかった問題点が見えてきます。



研修4日目(9.8)

①
4日目もグループ演習です。各班には共通の情報で市町村森林整備計画をつくります。



②
活発な議論がくり広げられます。



③
疑問点等は講師に聞きながら作業を進めます。



④
班毎に成果の発表です。予め定められた時間内にプレゼンしなければなりません。



⑤ 発表終了後は講師から講評があります。



⑥ 最後に各班毎の発表内容をおさらいするとともに課題を共有し、問題解決に向け検討します。



研修最終日(9.9)

① いよいよ研修最終日、本日から担当の藤野プロセスマネージャーよりスケジュールを説明します。



② 後期研修までに用意をする課題の説明を行います。後期研修は市町村森林整備計画の演習に加え、プランナーが加わり経営計画の演習も行われます。



③ 今回の研修を通して明らかになった疑問点等を書き出し、解決できるものについてはクリアしていきます。



④ これまでの研修を振り返り、研修を通してフォレスターについて感じたこと等を話合います。



⑤ 前期研修、最後の発表です。理想とするフォレスター像、フォレスターになるためにしなければならないこと等一人ずつ発表します。



⑥ 一人一言発表に続いて閉講式です。大蔵指導普及課長から閉講の挨拶です。



⑦ 前期研修も無事終了。次は2ヶ月後です。